



【いよいよ9月、秋に向けて大きな飛躍を】

猛暑が続いたこの夏、皆さんはどのように過ごしましたか。夏休み中、3年生は3日間の外部講師(水戸駿優予備学校)による出前講座とそれに続く課外授業が、1・2年生は2泊3日の学習合宿(日本製鉄鹿島人材育成センター)とそれに続く課外授業がありました。さらに各種模試や教科の個別指導、志望理由書指導から学卒ジョブサポーター(ハローワーク土浦)による就職模擬面接指導まで、進路希望に応じて様々な取り組みがなされました。また、1・2年生でも志望校のオープンキャンパスや公開講座に参加するなどして目標を明確にし、モチベーションを高めた人もたくさんいました。そしていよいよ9月、この夏に蓄えた力を発揮する時が来ました。まずは今日から始まる課題考査でしっかりと結果を出してください。この考査は「夏休みの課題」が出題範囲で、高得点を狙いやすいテストです。また、このテストの成績まで含めて前期の評定を算出します。がんばってください。

さて、3年生は既に大学等のAO入試や公務員試験が始まっており、民間企業の就職試験まで2週間、大学の一般入試まで5ヶ月となりました。第一志望合格を目指して全力で取り組んでください。1・2年生は、部活動や行事で本校の中心となる一方、学習内容もより高度なものとなります。自己の現状と課題を明確にし、目標を持って毎日の学校生活に臨んでください。具体的には以下のことがらに留意し、学期末に向けてより充実した毎日を過ごし、次の段階への飛躍に繋げてください。

- ①高校生活のリズムを取り戻す：起床・食事・学習・就寝の時間を固定し、家庭学習の習慣化を図る。
- ②上位2割に入る：クラスで、学年で、全国で・・・身近な集団から順次始めて、上位2割に入ることを目指す。
- ③ライバルをつくる：同じ目標を持つライバルと競い合い、ともに向上する。受験は団体戦で臨むもの。
- ④逆算して準備する：1日でも早く「本気の取り組み」を開始する。今日から始め、何もしない日をつくらない。

【大学入試センター試験について確認しよう】

大学入試センター試験(令和2年1月18日(土)、19日(日)実施)の受験案内が9月初めより配付されます。いよいよ入試関係の事務手続きが始まります。ミスのないように、事前にしっかりとスケジュールなどを確認しておきましょう。AO・推薦入試の合格発表前に志願票の提出が締め切られますので、万が一に備えて一般入試の準備をしてください。また、合格内定後の学力の維持・向上の面からセンター試験の受験が適切であること、進学後には一般入試での合格者とともに大学教育を受けることから、AO・推薦入試希望者もセンター試験を必ず受験してください。

①志願票記入

- 記入ミスのないよう必ず下書きをする。
- 受験教科等を出願時に登録する必要がある。特に地歴・公民(地歴・公民は1教科として扱う)、理科については受験科目数や科目選択方法を1つ選んで記入する。

②検定料納入(納入期間 9月2日(月)から10月10日(木))

- 検定料
 - ・3教科以上受験・・・18,000円
 - ・2教科以下受験・・・12,000円
 - ・成績通知手数料・・・800円

③志願票提出

- 出願期間 9月30日(月)～10月10日(木)
- 志願票は学校に提出する。⇒学校への提出：9月24日(火)
- 確認はがきで登録内容を確認し、志願票の受験教科及び受験科目数の訂正が必要な場合は、大学入試センターへ届け出る。

入試関係の事務手続きの期限は絶対的なもので、遅れることは許されません。また、不明な点については必ず先生に確認するようにしてください。

【 大学入学共通テストとは？ 】

国公立大学の受験資格を定める試験として 1979 年に始まった共通一次試験。その後 1990 年に私立大学受験にも成績を利用できる大学入試センター試験へと進化を遂げ、2020 年からは、大学入学共通テストとしてさらに新しくなります。これは現在の社会変化を受けた教育改革の一環として行われるもので、これからの社会で求められる力をより評価できるよう、出題方針や制度に変更が加えられます。

①実施日程、出題教科・科目はセンター試験と同様

共通テストは、センター試験と同様に1月の中下旬の2日間で実施されます。初回の実施は令和3年1月16日（土）・17日（日）です。

実施初年度はセンター試験と同様の6教科30科目が出題されます。各教科内の科目の選択方法もセンター試験と同様です。

②思考力・判断力・表現力を重視

問題作成の基本的な考え方として、「知識の理解の質を問う問題や、思考力、判断力、表現力を発揮して解くことが求められる問題を重視する」としています。センター試験においても知識の理解の質を問う問題や、思考力、判断力、表現力を活用して解く問題が出題されており、また、大学入試センターが示した問題作成方針のなかでも「センター試験における良問の蓄積を受け継ぎつつ」とあり、共通テストは、センター試験の実績をベースに実施されます。

また、文章・図・資料などの複数の情報を提示し、必要な情報を読み取る力や、読み取った情報を比較したり組み合わせたりして、課題を解決する力を問うことを意識した問題が出題されそうです。なお、高校で身に付けた知識の理解や思考力等を、新たな場面で発揮できるかを問うため、資料等では教科書で扱われていないものも扱う場合があるとしています。

③数学と国語で記述式を導入

現行のセンター試験は全てマークシート方式で実施されていますが、共通テストでは数学①と国語で記述式問題が導入されます。

国語の記述式問題は、マークシート式問題とは別の大問で出題されます。大問は、小問3問で構成され、解答字数は最も長い問題で80～120字程度を上限にしたものとなります。国語の記述式問題は、マークシート式問題の配点には含まれず、別に各小問と記述式問題全体の段階別評価が示されます。試験時間は現行のセンター試験の80分から100分に延長されます。

数学①の記述式問題は、数学Ⅰの範囲からマークシート式問題と混在させた形で、数式等を記述する小問3問が出題されます。数学の記述式問題は段階別評価ではなく、マークシート式問題と合わせて100点の中で配点が行われます。試験時間は現行のセンター試験の60分から70分に延長されます。

④英語筆記は「リーディング」に改称、「リスニング」と同配点に

センター試験では英語受験者には「筆記」「リスニング」が課されていましたが、「筆記」は「リーディング」に名称が改称されるとともに、配点が200点から100点に変更されます。一方、「リスニング」の配点は50点から100点に変更され、「リーディング」と同配点になります。また「リスニング」では、読み上げられる音声の回数が、問題により1回読みを含めたもの（センター試験は全て2回読みで実施）が出題されます。

⑤英語の資格・検定試験の活用

グローバル化が急速に進展するなか、英語のコミュニケーション能力を重視する観点から、国は、大学入試においても4技能（読む・聞く・書く・話す）を評価する方向性を示しました。しかしながら、各大学が個別で実施する英語の試験において、リスニング（聞く）やスピーキング（話す）を実施するのは実施上の負担が大きいこともあり、これまでの大学入試はリーディング（読む）が中心でした。そこで、4技能評価を行っている民間の英語の資格・検定試験を入試に活用することとなりました。

2021年度入試からは、「大学入試英語成績提供システム」が運用され、受験生が受けた資格・検定試験の成績を大学入試センターが一元的に管理し、入試に利用する大学へ成績を提供します。このシステムに登録できるのは、高校3年生以降の4～12月の間に受験した最大2回までの成績のみとなります。

英語認定試験の成績の活用方法は、主に「出願資格とする」ケースと、「得点化して活用する」ケースに大別されます。各大学において活用方法は様々ですので、各自が確認してください。

*「大学入試英語成績提供システム」については、TOEICが参加を取り下げたことで話題になっています。皆さんに馴染みのある「英検」で「大学入試英語成績提供システム」に登録するには、「英検2020 1 day S-CBT」という従来型の英検とは異なる試験を3年生になってから受験する必要があります。確実に受験するために、**2年生の9月に予約申込**をしなければなりません。**予約申込には3,000円が必要となり、キャンセル等による返金はありません。**2年生と浪人する可能性のある3年生は慎重に考えて予約申込をしてください。